



2009年10月1日発行



香川総合医療教育研究コンソーシアム 「チーム医療を考える三大学学生の集い」に参加して

戦略的大学連携支援事業の一環として「チーム医療を考える三大学学生の集い」が平成21年6月6日に徳島文理大学香川キャンパスで開催されました。本学からは看護学科・臨床検査学科から1年次生2年次生40名、香川大学医学部医学科・看護学科、徳島文理大学薬学部薬学科・薬科学科・理工学部臨床工学科から85名、計125名が参加しました。



第一部は香川大学医学部脳神経外科学 田宮隆教授による特別講義「ある脳神経外科医の一日」が実施され、続いて各大学各学部・学科の教員9名と学生達による討論が行われました。討論の内容は十分ではありませんでしたが、チーム医療について考えるよいきっかけになったのではないかと思います。第2部は各大学学生代表の企画の下、体育館において3大学混成10チームによるバレーボール大会が行われ、その後、懇親会において、成績発表があり、会食をしながら学生間の活発な交流が行われました。

参加した学生達のアンケート調査で、本イベントについて82%が有意義であったと答えており、教職員からも大変よい企画であったとの感想でした。10月には各大学で開催される大学祭の相互参加も計画されており、3大学学生交流のさらなる発展に期待したいと思います。

大学行事

(H.21年4月～9月)

オープンキャンパス

7月20日(月/海の日)午後1時より、全学あがりのオープンキャンパスが行われました。全体の説明の後、看護学科は学内を自由に見学、臨床検査学科は複数のグループに分かれての実習体験・見学、その後、在学生や教員との個別相談が行われました。県内外より高校生236名、保護者102名と、大講義室(300名収容)に入りきれないほど多数の参加をいただき、ありがとうございました。来年度も同様に実施する予定です。また、10月17日に行われる橄欖祭(大学祭)においても、在学生や教員による学内案内や説明を行いますので、本学に興味のある方は、ぜひお越しください。



今回参加された方々が、
本学に好印象を持って頂き、
受験していただけることを
期待しています。

教育講演会

●臨床検査学科教育講演会

本年度から学生に対して通常の講義とは異なり付加価値の高い内容を勉強させるための教育講演会を企画し、本学大講義室で6月21日(日)に開催しました。

内容は、①「古地図で歩く香川の歴史：高松城下に遊び、二十四の瞳の世界をさまよう」と題して香川県の歴史研究家である井上正夫博士が講演しました。井上先生は昭和3年に発行した古地図から高松市内の町並みの変化の話や、香川県の代表的作家である壺井栄先生の「二十四の瞳」に登場する大石先生の実像に迫りました。井上先生によれば、この大石先生は架空の人物ではなく、実在するある人物をモデルにしたのではないかとその新しい学説を発表し、興味ある内容でした。②本年は大学にとって節目の開学10周年を迎えるため、「新たな時代と歩む臨床検査技師」と題

した記念フォーラムを企画し、4名の先生に以下の内容について講演していただきました。

1) 大学院教育と臨床検査技師(加藤亮二 臨床検査学科長)、2) 臨床検査技師の職域拡大に向けて(長村洋一 鈴鹿医療科学大学教授)、3) 臨床現場から期待される臨床検査技師(細萱茂実 本学教授)、4) 卒業生からみた臨床検査技師への夢(奥田篤技師:1期生)。いずれの内容も今後の臨床検査技師に対する熱い思いが伝わり、学生にとって意義ある日となりました。



●教養部教育講演会 国境を越える教育 Education across borders

教養部主催の教育講演会が、7月21日(火)キャンパス内で、高松市牟礼地区と交流のあるアメリカ・ジョージア州エルバートン市から、高校生6名と引率のリチャード・キャンベル氏を迎えて開催されました。講演会は英語で行われ、対象者は本学1年生と参加可能な教職員。プログラムは2部に分かれ、最初の1時間はキャンベル氏による「Healthcare and Legal Issues in the United States (アメリカにおける医療と法律問題)」



というテーマでの講演、後の1時間半はアメリカからの学生と本学の学生、又はキャンベル氏と教職員を含むグループディスカッションでした。特にグループディスカッションの時に会場が盛り上がり、参加者がわくわくした様子でした。全て英語で行われる初めての行事でしたが、他の国の医療と法律についての知識を得る事と同時に、学生及び職員の英語教育や国際交流にとっても有意義な教育講演会でした。



公開講座

8月20日(木)に、公開講座《健やかに生きよう》が、香川県社会福祉総合センターで開催されました。今回は、高松市の中心部で行う第一回目の公開講座であり、「知っておきたい血圧の話」講師：湯浅繁一学長、「私の旅路～パキスタンからカナダ、そして日本へ」講師：ジャンジュア ナジマ教授の2講座を開講し、66名の方が受講され、好評のうちに終了しました。

今年度は、11月6日(金)に本学内においても開催いたします。詳しいことは、大学ホームページや県広報誌などで御案内いたしますので、興味のある方は、ぜひ一度お越しください。



研究紹介

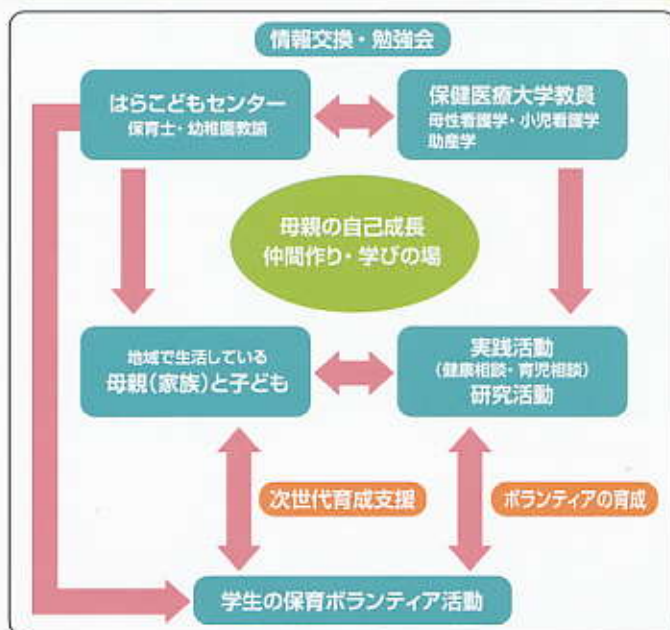
地域子育て支援研究会

本研究会では、母性看護学・小児看護学・助産学の教員が中心となり、「子ども・親そだちの集まり」を大学近くの「はらこどもセンター」において、平成17年度から毎月1回開催しています。センターでは、在宅で子育て中の親子に対して遊戯室を開放する「ほっといきいき子育てルーム」を週2回開設し、母親と子ども達の触れ合いの場となっています。研究会では、その一部をセンターと共同で企画運営しています。

活動の内容は、月1回のミニ講座・子育て健康相談及び夏休み期間を利用した学生の保育ボランティア育成を中心とした次世代を育てる支援・実践活動と母親の育児ストレスや活動に参加した学生の学びについての研究活動です。



はらこどもセンターとの連携 ミニ講座での「ベビーマッサージ」の様子



子育て支援における大学教員の役割としては、1. 専門家(助産師・看護師)としての立場からのお母様へのアドバイスだけでなく母親同士が学びあう場の提供、2. 子育て支援活動を通じて次世代育成(母親育ち・子育て・学生が専門家としての育ち)を支援する活動の二つがあると考えています。このような母親と子どもたちの仲間作り・学びの場を、保育士・幼稚園教諭など様々な人々と連携しながら創っていききたいと思います。

地域子育て支援研究会 代表
看護学科 講師 野口 純子

図書館便り

館内は所蔵している資料を利用しやすいように、医学、心理学、社会学などの主題や資料の形態に応じて配置しており、専門教育図書、教養図書、参考図書、洋書、指定図書、地域資料、視聴覚資料、専門雑誌、紀要、新聞などがあります。

AVコーナーでは、保健医療・看護学・臨床検査学・助産学のビデオやDVDの視聴、外部データベースにアクセスして専門分野の研究論文が検索可能です。また、ブラウジングコーナーでは、新聞・雑誌に目を通すことができます。専門雑誌や紀要など最新の情報は、課題・研究レポート作成に大いに利用されています。



AVコーナー

サークル紹介

硬式庭球サークル

私たち硬式庭球サークルは、現在30人で、週2回活動しています。“みんなで楽しくテニスをする”をモットーに先輩後輩の分け隔てなく仲良くテニスをしています。明るい部員ばかりなので、いつもコートには笑顔が絶えません。テニス以外でも新入生歓迎会や夏の合宿などで親睦を深めています。また、年2回愛媛県立医療技術大学との交流会もあり、今後も他大学との交流を続けていく予定です。

看護学科 2年 渡辺 あずさ



健康メモ

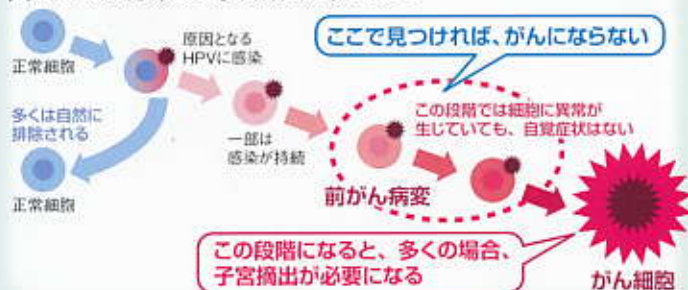
子宮頸(けい)がん

若者に急増中?! でも予防が可能

日本では毎年約12,000人が子宮頸がん罹患し、約3,500人の尊い命が奪われています。たとえ死亡に至らないまでも、ごく初期のがんを除いては子宮摘出となる可能性が高く、その場合は妊娠や出産ができなくなることはもちろん、排尿障害などの後遺症により日常生活に支障をきたすこともあります。子宮頸がんは、若い女性から年齢の高い女性まで、すべての年代の女性に起こる可能性があるのですが、20代~30代で急増しているのが特徴です(図1)。したがって、これから結婚や出産を迎える年代にとっては特に深刻です。

子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。HPVの子宮頸部への感染はほとんどが性交渉によるもので、性交渉によって子宮頸部粘膜に微細な傷が生じ、そこからウイルスが侵入して感染が起こると考えられています。このウイルスに感染すること自体は決して特別なことではなく、性交渉経験がある女性であれば誰でも感染する可能性があります。HPVに感染しても、ほとんどの場合感染

図2 HPVの感染から子宮頸がん発症まで

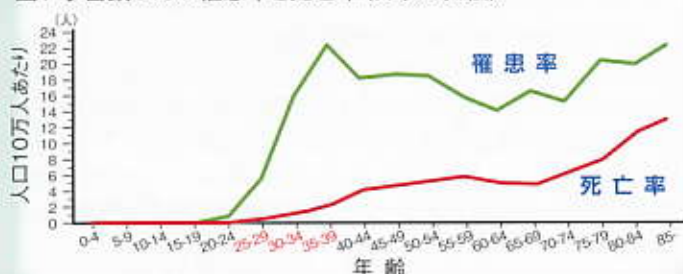


は一過性で、ウイルスは自然に排除されます。しかしウイルスが排除されずに長期間感染が続くと、ごく一部のケースで数年~十数年間の前がん病変(がんになる前の異常な細胞)を経て子宮頸がんを発症します(図2)。HPVの感染は非常に一般的ですが、子宮頸がん発症に至るのはごく稀です。しかし HPVに感染した後にどのようなタイプの人か子宮頸がんを発症するかは分かっていないため、子宮頸がんを発症する可能性は誰にでもあることになります。

HPVが子宮頸部に感染してから子宮頸がん発症までは数年~十数年を要するため、この間に子宮頸がん検診によって前がん病変を早期発見し、治療することが可能です(図2)。また、原因であるHPVの感染を予防するワクチンも開発されており、欧米をはじめとする世界100ヶ国以上で発売されています。日本でも近い将来、このワクチンが使用できる見込みで、子宮頸がん罹患率の低下が期待されます。

看護学科 教授 秦 幸吉

図1 子宮頸がんの罹患率と死亡率(日本人女性)



今後の行事予定

10月17日(土) 橄欖祭(大学祭)

10:00~18:00 テーマ「芽~kizashi~」

11月6日(金)

公開講座

13:30~16:00 「健やかに生きよう」

入学試験

11月21日(土) 推薦入試(看護学科・臨床検査学科)

2月25日(木) 一般前期入試(看護学科・臨床検査学科) / 3月12日(金) 一般後期入試(看護学科)



KAGAWA PREFECTURAL COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1

Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202

E-mail: hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>



■学校への経路

西方面から→高校から車で30分、ことでん志度線・原駅下車徒歩10分、高松東 ICより車で10分
東方面から→JR高徳線・JR志度線から車で5分、志度 IC (又は、さぬき三本 IC)より車で5分